

研究種目：基盤研究（B）

研究期間：2007～2010

課題番号：19320010

研究課題名（和文）中国印度宗教史とくに仏教史における書物の流通伝播と人物移動の地域特性

研究課題名（英文）Regional Characteristics of text-disseminations and human relocations in the history of Chinese and Indian religions with special reference to Buddhism

研究代表者

船山 徹（FUNAYAMA TORU）

京都大学・人文科学研究所・教授

研究者番号：70209154

研究分野：仏教学（中国、インド）

科研費の分科・細目：哲学（分野）・インド哲学・仏教学（細目）

キーワード：仏教学 中国哲学 宗教文献

1. 研究計画の概要

本研究は中印交渉史の観点から、紀元後5世紀から9世紀頃を中心に、中国と、中国に関わる限りでのインドにおけるテキストの成立伝播問題に着目し、もの・情報としてのテキストがどのように具体的に移動したか、人物の移動といかに連動するかの解明を目指す。研究期間は4年である。インドのナーランダー、カシュミール、ウツジャイニー、ガンダーラ等の諸地域の宗教的地域特性とグプタ朝、パーラ朝等王朝との関係、および、中国の長安、洛陽、建康（南京）、広州、成都、荊州、姑臧（武威）、敦煌等の諸地域の特性とその相互交渉、南北朝期の人物移動のあり方、書物の伝播経路等について、諸地域の共通性と差異性を仏教を中心に考察することにより、仏教思想関連の動向を可能な限りリアルかつ動態的、多角的に把握することを使命とする。そのために明らかにすべき事柄として以下を行う——6世紀以降の中国仏教史において重要となるインド唯識思想の輸入と伝播のあり方という問題を、6世紀のインド僧である真諦三蔵の事跡と彼らの活動のもとになったインドの唯識系大乘仏教、そしてそして7世紀以降への影響、またそれに先行する5世紀の戒律文献の成立と流伝等を軸として多角的に分析し、人物の移動ルートを確認し、同時代主要各地の地域特性と諸地域の人物出入およびその意義を考察する。また5～9世紀の中国仏教関連原典における書物の伝播と人物移動データを網羅的に集成する。以上を行うことにより明らかになし得るテキストの成立地と伝播地に関する情報は、文献を正しく読み解くことと直結する。本研究は、思想という形のみえない文化現象が、当時の社会の中にどのように存在したかを知

るための視座を提供しようとするものである。

2. 研究の進捗状況

本研究の扱う領域は多岐にわたるが、それらを統括する位置にある中心的研究は、真諦三蔵をキーパーソンとして、中国江南（揚子江以南地域）の人物と書物の動きに関するケース・スタディであり、これに関して過去3年の間に全員が参画する形で35回に及ぶ研究会「真諦三蔵とその時代」を開催した。当初予定していた課題文献の訳注作成の基本はほぼすべて終了し、現在は成果の公開に向けて出版原稿の準備を進めている。

またこれとは別に、宗教文献の地理的移動特性と関係するものとして、これまで5名の海外研究協力者に関連研究を要請し、公開講演会を開催した。それらによって研究対象領域とされた地域はインド全土、東南アジア、内陸アジア、敦煌、そして中国各地である。

さらに研究代表者である船山は、インドと中国を繋ぎ、中国各地を移動したインド人僧侶としての真諦三蔵の活動の特徴に関する長文の英文論文をヨーロッパで発行される国際的水準の仏教学雑誌に発表した。また、5～8世紀頃の中国の戒律文献に関する研究として、『梵網経』の成立とテキスト伝播に関する研究を行った（その成果は「梵網経諸本の二系統」と題する雑誌論文として今年中に出版公開する）。さらにインドのパーラ朝のナーランダー大寺院に即して地域の特徴を考察する学会発表、および、インド中国仏教史において要となる諸地域の基本的特徴に関する研究会発表を行うなど、当該問題に関して多角的かつ重層的な考察を進めている。研究分担者の稲葉は、アフガニスタンを中心に内陸アジアにお

ける宗教、民族、歴史の動態を研究する論文と口頭発表を行った。古勝は六朝時代の末から隋、そして唐の初頭を中心的考察年代として儒教における地域性を扱う論文や儒教を含む注釈文献の特性に関する諸論文を発表し、また当該研究会における発表を行った。麥谷は江南道教の地域特性に関する研究を一次資料の綿密な整理を通じて進めている。これらの個別的研究を通じて、宗教文献と人物移動の関連性はとりわけ仏教の特色であって、仏教と比較した時、儒教や道教では仏教ほどには人物移動が文献の成立伝播と関わらない可能性も浮上してきた。

さらにインド中国仏教史の基本史料である『高僧伝』『続高僧伝』(漢文資料)、『プトン仏教史』(チベット語)における僧侶の移動に関する基礎データの分析整理を進めている。

3. 現在までの達成度

真諦三蔵研究に関しては、当初予定していた事柄は基本的に達成したと言ってよい。今後はその成果を公開すべく、出版に向けて更なる準備をすすめる必要がある。

『高僧伝』等の基本史料のデータ整理に関しては現在進行中であるが、その一部はすでに図書および論文の形で研究成果を公表した。ただし目下入力整理中の生データをどのような形で成果公開するかについては今年さらに作業を蓄積して検討する必要がある。

研究代表者および分担者が行ってきた研究成果は、関連論文15本、関連学会発表13件、図書8件として既に公開されている。たとえば船山が共著として出版した『高僧伝』(岩波文庫、全四冊中三冊は既出版)は本研究それ自体の成果報告書ではないが、本研究に基づく成果を反映した訳注が多く含まれている。

4. 今後の研究の推進方策

本研究は本年1年を最終年度として終了する。そのため、これまで準備を進めている真諦三蔵の事跡に関して出版原稿作りを継続して現在粛々と進めている。この作業は細心の注意と膨大な時間を要するため、今年度も研究会を頻繁に開催する必要がある。

インドの論書(シャーストラ)を対象とする研究は船山が行っているが、不特定多数の人物によって編纂された経典(スートラ)とインドの地域性という問題は未解明の事象として残されている。これについては今年度に適切な海外研究協力者に協力を依頼し、公開講演会を開催する予定である。

儒教および道教と地域性の関係についての研究は各研究分担者によって本年度中に公開する予定である。また『高僧伝』等の基本史料のデータ整理に関しても今年継続して作業をすすめる予定である。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計15件)

Toru Funayama, The Work of Paramartha: An Example of Sino-Indian Cross-cultural Exchange, Journal of the International Association of Buddhist Studies, 31-1/2, 141-183, 2010, 査読有

稲葉穂、ヤカウラングとリバーテ・カルヴァーン——ハザーラジャート北部の歴史地理、オリエント、50-1, 177-183, 2007, 査読有
古勝隆一、劉炫の『孝経』聖治章講義、中国哲学史研究、30、29-58、2009、査読無

[学会発表] (計13件)

船山徹、ナーランダーの学術仏教とカマラシーラの認識論、第53回東方学会議開催部会、2008.5.24、京都市国際交流会館

Minoru Inaba, Between Zabulistan and Gusgan: Some Issues Related to the Historical Geography of Pre and Early Islamic Afghanistan, Crossing Borders: Pattern of Exchange across Afganistan, Pakistan, and Central Asia, 2010.3.15-16, ウィーン大学芸術史研究所(オーストリア)

[図書] (計8件)

吉川忠夫・船山徹、高僧伝(一)、岩波書店、2009、444

[産業財産権]

○出願状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

[その他]